

区民と区長のダイアログカフェ

令和7年8月26日

区長と区民のダイアログカフェ

令和7年8月26日

【広報戦略課長】

本日はお忙しいところ、ダイアログカフェにご参加いただきましてありがとうございます。
これから、区民の皆さんと区長とのダイアログカフェを始めさせていただきます。

私は、今年から広報戦略課の課長になりました横山と申します。どうぞよろしくお願いします。

それでは、まず開会に先立ちまして、成澤区長よりご挨拶をいただきますので、よろしくお願いします。

【区長】

皆さん、今日はお忙しい中、この暑い中、お集まりをいただきましてありがとうございます。
区民と区長のダイアログカフェといった形で、この間、こういった対話をしてきているんですが、実は大昔は、区長と語る会といって、大きな会議室に申し込んだ人が来て、自分の主張を述べるという会なんですね。最初のうちずっとそれをやっていて、実は、この会は意味ないなと思ったんですよ。というのは、みんなで合意点を見つけようという会ではなくて、自分の言いたいことを言って、それに、人の時間も奪って、自分の主張だけを述べて、溜飲を下げて帰られる方がいるというような会で、そういう会は、今、インターネットで、区民の声とかいろんなものがあるので、自己主張はそこでやってくださいということで、みんなで対話することで、同じ方向性を向くことができたかなというのを目的として、こういう会の形に変えました。

今日、様々なご意見をいただいて、それで合意することができれば、区の施策に反映していきたいなというふうに思いますが、一つだけ私からお願いがあるのは、一人称で今日はみんな語りましょうということです。「私は」で話したほうが、きっと相手に伝わるんじゃないかなというふうに思います。

今日は、もう一つはつながるということもテーマの一つだと思うので、今、ちょうど子どもの権利条例をつくっている最中で、私は子どもたちに会うと必ず伝えているのは、皆さん、今回は文京区の子どもの権利条例の前文は、中高生たちに書いてもらって、僕は一字一句直さないと。君たちが一生懸命考えて、いろんな意見が出たろうけども、合意されたものを、議会が修正しようとしたら、再議をしてでも、皆さんたちが書いた文章を一字一句直さずにそのま

ま使うというメッセージを伝えています。

それと同時に、僕は昔からディベートが嫌いだというふうに言っていて、ディベートというのは、例えば高校生とか大学生になると必ずやるんですけど、それぞれの立場に立って、相手を打ち負かすための技法がディベートですよね。ディベートに至る経緯は、物事を深く掘り下げたり、いろんなことを調べ直したりして、材料となるものを集めるということは、社会でも通用することだと思うけども、相手を打ち負かすための話法を使うことは、社会に出てほとんどないと。国会中継とか見ていると、何かそんなようなことをやっていますけど、あれで何か決まっているわけではないと。それよりは、今のこれからの青少年たちに獲得してほしいのは、自分で自分の設定したテーマをしっかりと調べて、それを自分の言葉で相手に伝えて、そのことによって仲間を増やしていった、合意形成につながって、それがいろんな決まり事になっていく。そのことを学んでほしいというふうに伝えています。

今日もそんな場でありたいなというふうに思いますので、ぜひ最後までよろしく願いいたします。

【広報戦略課長】

それでは、最初にいくつかご説明をさせていただきます。今、区長からもありましたけれども、このダイアログカフェというのは、皆様と区長がリラックスした雰囲気の中で、区政の課題とか、未来像とか、そういったものについて自由に意見交換をして話し合う場になりますので、そういった形で、区にとっても新しい視点が得られるかなと思っています。そういったときに、事業の展開の方向性を我々も探らせていただきたいというふうに思っています。それで、皆様同士の相互理解とか連帯感とかを醸成することも目的として実施をしているものでございます。

今回のテーマは、そちらに書いていただいております、皆さんにも事前にお知らせしましたが、「子どもの健やかな成長がつむぐ地域の未来」というのがテーマでございます。皆様のそれぞれの視点から、様々なアイデアを共有いただきたいなというふうに思っております。

本日の進行につきましては、ファシリテーターのチヒロさんになります。ご紹介させていただきます。

チヒロさんは、トークイベントであります「文京区100人カイギ」など多数のイベントを文京区で主催をしていただいております、最近では「お寺マルシェ」を開催するなど活躍していただいております。そういったイベントを通じて、たくさんの方とつながっておりますので、この中にご存じの方もいらっしゃるのかなというふうに思っております。

またチヒロさん自身も、このダイアログカフェに、以前参加者として参加していただいたという経緯もございます。

また、今日スタッフとして、区の職員2名参加しておりますので、何かありましたらお申しつけください。

それから本日の記録につきましてですけれども、区のホームページに要点記録という形で掲載をさせていただきますので、対話の内容は録音をさせていただきますのでご了承ください。また発言の際には、先ほど皆さんに書いていただいたお名前ですね、シールに貼っていただいているかと思いますが、その名前を最初に言っていただいてからご発言をお願いいたします。ニックネームをはじめ、発言された方のお名前など、個人情報については会議の記録からは省いた形で作成をいたしますので、今この場では忌憚のないご意見をどんどん発言していただければと思います。

それから、事業の記録用として、こちらのお話のご様子の写真を撮らせていただきますので、外部提供は行いませんが、何か支障がある方がいらっしゃいましたら、後ほど職員のほうまでお声がけください。

最後にこの会場ですね、「さきちゃんち」につきまして、こちらはチヒロさんからご紹介いただきまして、本日、事業にご理解、ご協力をいただいて開催する運びとなりました。ありがとうございます。

【ファシリテーター】

ちょうど事業主がいらっしゃるので、お二人からお願いいたします。

【広報戦略課長】

よかったら、ちょっと簡単にこの場の説明を。

【区長】

二人ともダイアログカフェの参加経験者ですね。最初の頃の。

【さきちゃんち運営委員会】

さきちゃんち運営委員会は、2015年にここからちょっと離れた小石川のほうに、初めは子どもの居場所ということで始まったのが始まりでして、ちょうど2020年に、そこでやっていた親子サロンをさきちゃんちpetitとして継続して、その後、2021年にこちらのワークスペースさきちゃんちということで、こちらはもう対象者の線引きをしない、多世代型の居場所ということで、オープンさせていただきました。

本当に区民の有志の方でここをお開きになって、みんなでコンセプトに従ってというか、本

当に緩いコンセプトがあるんですけれども、それをみんなで共有しながら、一緒に協力して開いていくという形で運営しています。カレンダーなどはサイトで見られますので、好きなサロンとかがございましたら、ぜひまた遊びにいらしてください。

私たちも対話というのをすごく大事に思って運営しておりますので、本当に、今日、このダイアログカフェをこちらで開催していただけたということをありがたく思っております。

【広報戦略課長】

ありがとうございます。

それでは、これから対話を始めさせていただきたいと思います。

では、ここからの進行はファシリテーターのチヒロさんにお任せしたいと思います。では、どうぞよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。今日はチヒロちゃんと呼んでいただけたとありがたいです。

先ほどご案内がありましたが、以前、私もこの会に出たことがきっかけで、まちの仲間がすごく増えて、活動が加速するようなことがたくさんありましたので、今日も皆さん仲よくなっただいて、きっとそんな思いで今日はいらしていただいていると思うので、皆さんも一緒に活動できたら楽しいし、うれしいなというふうに考えております。

まず区長は、ピロリンですね。

【区長】

ピロリンです。なぜピロリンかというと、私、廣修なんですけども、このダイアログカフェの2回目のときに、誰かが僕のことを勝手にニックネームを作って、ひろに丸をつけてピロリンにしたんだろうと思って、そこに座ったら、トイレに行っていた人が帰ってきて、そこは私の席ですと、別のピロリンが、本物のピロリンがいたんです。でもそれは面白いなということで、拝借させてもらって、3回目からずっとピロリンです。今日はピロリンで。

【ファシリテーター】

ピロリンと呼んであげてください。すごくフレンドリーな、もちろん皆さんご存じの区長さんですが、みんなで仲よく、気軽に、気楽に、今日、参加していただけたらと思います。

今日のゴールは、自分たちで区と一緒に何かできないかなという発想で、いろんなアイデアを出していくこと。一つのアイデアにまとめるということではなく、いろんな意見が出るような会にしていきたいと思います。お時間の関係で全てを一つ一つ掘り下げるのは難しいので、できるだけ多くの方に共通するキーワードを基に、みんなでテーマを掘り下げていきたいと思

っています。中には掘り下げることができないというテーマもあるかもしれませんが、限られた時間内ということで、終了時間は午後8時30分を予定しておりますので、ちょっとそこを目途に、ぼんぼんとなるべくやっていけたらいいなと思っています。

先ほどご案内がありました、本日の会は録音されていますので、発言されたいときには手を挙げて、私は何々さんという形でお願いしますので、そしてお話しいただくと、議事録上、整理がうまく行きますので、そうしていただけるとありがたいです。

先ほどピロリンからもありましたとおり、和やかな会を目指したいと考えていますので、誰かの発言の批判や否定はできるだけせずに、アイデアを膨らます方向で、それはいいね、それもいいねといった感じで進めていけたらいいなと思っております。

よろしいでしょうか。何かご質問ありますか。今のところ大丈夫でしょうか。

それでは、自己紹介タイムということで、1分くらいで今日呼ばれたいお名前とアイデアシートの発表ということで、順を追ってお願いしたいと思います。アイデアの名称、タイトルですね。おっしゃって、そちらの目の前にある紙とペンでご自身の書いたものを書いていただいて、模造紙に貼っていったらいいなと思っております。こちらにペンありますので、好きな色で。

【参加者A】

質問があります。

【ファシリテーター】

はい。

【参加者A】

これは1エピソード1枚という。

【ファシリテーター】

そうですね、思いついたことをぼんぼん貼っていく形式にしますので、たくさん書いていただく感じでお願いできたらと思います。

【参加者B】

自分の持ってきたものを。

【ファシリテーター】

まずタイトルを書いていただいて。皆さん一人ずつ発表していく間に、お話を聞きながら、心に残ったキーワードはまた書いていただいて。次の方がお話ししたことや、そこで気になったこととか。

【区長】

相手の方のテーマの中で、自分が、これは参考になるんじゃないかなというアイデアが出たら、そこに足して。

【ファシリテーター】

なので、最初はまず、ご自身のタイトルを書いていただければと思います。

【参加者E】

1分ということですけども、時間が来たら教えていただけるのでしょうか。

【ファシリテーター】

あまり長くなるようでしたら、私がすみませんとお声がけします。

それでは最初に、「保育園の庭の確保策」というアイデアシートの方からお願いします。

【参加者A】

はい。私が何でAかという、私の本名がすごく渋い名前ですね、もう大分前からAってミドルネームをつけちゃって、いろんなところでこれを使っているんです。そのほかに仕事面もね、40年ぐらい仕事をしていて、今年の3月に完全リタイアしたので、こういうところに出るのは初めてなんですけれども、ちょっとどんなところかなという感じで出てみました。

保育園の庭の確保策というのはね、私は群馬県で無認可保育園をしていたことがあって、7年やっていたんですけど。こちらのほうに引っ越してきて20年弱になるんですね。それで、前に区議会議員か何かの選挙のときに、スーパーの前である議員の方が演説をしていたんですけど、何かご質問と言ったら、私が、すみません、保育園がすごく少ないので、もっといろいろ充実していただけますかと言ったら、その人が、奥さん、そんなこと平気ですよって。もうちょっと足を延ばしていただければ保育園はありますからと言ったんですよ。私はそうなのかなと思ったんですが、実際にうちの孫が、こんにゃく閻魔のそばに住んでいたんですけど、行けたのはね、茗荷谷のそばのスーパーの上ですよ。庭ゼロ。なのでね、こういう東京都の状況であるから仕方がないのかもしれないけど、私はね、やっぱり保育園というのは庭が必要だというふうに思うんですね。自分で群馬でやっていたときはね、群馬の森というのが近くだったので、そこへ車で連れて行って毎日遊ばせていたのね。

例えば、このさきちゃんちがちょっといいなと思ったのはね、ここで、例えば保育ママか何かの部屋にして、それで植物園で遊ばすということだったらね、すごく広いし、車なんかの音もないし、いいかなと思って。広い庭の確保と、それから保育園を造るというのは非常にお金がかかったりとか、時間がかかったりするだろうということは理解できるんですけど、こうい

う小さいところを数か所、例えば空き家であったりとか、そういうものを使ってやるのもいいなど。ここなんかできるんじゃないかなと、自分が保育士をしていましたのでね。私がオーナーで、二人保育士さんに来てもらって、子ども10人来てもらって7年間やっていたんですけどね。なので、庭の確保策もそうだし、保育園、小保育園ね、そういう確保策というのもいいんじゃないかなというふうに思って、出させていただきました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

ご自身の経験を基にね、やっぱり広々としたところで教育ができればいいなというご意見でしたね。ありがとうございます。

続きまして、「お子さま直接サポート&AI解析サービス」というアイデアシートの方、お願いいたします。

【参加者B】

よろしくお願いします。Bです。名前が好きなので、そのまま呼んでほしかったので、お願いします。

フリップ芸人みたいに、ちょっと私、原稿を持ってきてまして。すみません。ちょっと小さくてごめんなさいね。

【参加者D】

大丈夫です。

【参加者B】

気になる子の支援を充実させたいと思ってしまして。私、今、本業で療育、発達にちょっと課題のある子たちの教室に勤めていて、元保育士です。

【ファシリテーター】

すごい。

【参加者B】

元々幼稚園で勤めてまして、3年くらい前から療育で働いております。療育って、受給者証という、区に申請した定期券みたいな、1年有効の、こういうところが課題だから療育に通いますというような定期券が必要で、それって障害者手帳とはまた別のものなんですけど、それを行政に申請するというのを知らない方も、結構いたりもするんじゃないかなと思っています。現在、教室に通うだけではなくて、区立や私立も含め、幼稚園、保育園の訪問支援という

形で月に一度、多い園は週に一度お伺いして、陰となり日向となり、そのお子様のサポートをしているところです。

今って、シームレスな支援とは言われるんですけども、でも、幼稚園とか保育園での困りごとって共有されなかったり、さらには、保護者の方も、お子様が園でどういうふうに行っているのかを細かく知らなかったりするものが現実です。また、幼稚園から小学校とか、小学校から中学と、所属が変わるとデータがリセットされているのが今の現状です。

そんな中で、変化に激弱な子たちなわけですよ。なので、毎回データがリセットされたらストレスの連続。なおかつ、私たちの教室に通うという、週1とか、多い子でも週3での支援は、やっぱり限界があるんですよ。そんなに劇的な変化を絶つことはなかなかできない。それだったら、今って、要は受給者証を持っているお子様しかサポートができないんですけども、そこに区のサポートが入れば、園でサポートする支援員にもなれたりとか、園と私たち支援員とご家庭が、要はトライアングルになって、3人4脚みたいにお子様をサポートできるシステムをつくれるんじゃないかなと思って、タイトルをお子さま直接サポート&AI解析としたんですけど、AI解析にするメリットって、要は園にいる、園の先生たちから話を聞くと、「ちょっと気になるけど、でもこのご時世、保護者に言いにくいんですよ。」とか、「この子ちょっと気になりますとか、こんな姿があります。」という、「悪く言われた。」とか、「うちの子に障害があるというんですか。」みたいに怒り出しちゃう保護者もいるという。若い先生たちは不安でしょうがない。でも、保護者から見れば、「うちの子一人で過ごしていない？うちの子本当に大丈夫？」という、お互いが不安。そのどちらの不安も解消できる。AIを使うことによって、例えば同じグーグルのアカウントを使うとかにすれば、私たち（支援員）が書いた情報を園の先生も見られる、はたまた保護者も見られるとすれば、情報が一元化される。又聞きで保護者の方から園の様子を聞かなくても、直接情報がやり取りできるので、先生も保護者もかゆいところに手が届く、手が届くシステムができるんじゃないかなと思いました。

なので、今はまだ受給者証というものを持っていないと支援を受けられないんですけども、文京区、やっぱり文教地区って本当に教育に力を入れている保護者の方ももっといるんだったら、文京区がモデルとなって、受給者証では判断し切れない支援とか、要は、困りごとは療育のお教室で起きているんじゃなくて、現場で起きているんだよということを発信できたらいいかなと思って。それを繰り返すことによって、文京区に住んでよかったとか、文京区の幼稚園に通わせてよかったとか、文京区の保育園ってすごく手厚いよねとなったらいいなと思って、

今回ご提案をさせていただきました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

今回、区民としてできることということで、いろいろ皆さんにアイデアを持ち寄っていただくという会なんですけれど、すごいですね。こういうことができちゃうんですね。

【参加者B】

できます。今ってC h a t G P Tとかそういうのが、すごくレベルが高いので、この子のこういう姿があったけれども、次の一手はどうするかそういうことを入れると、じゃあこういう環境はどうですかというのが出るので、じゃあ私たち支援員が行かない日に、非常勤の先生たちも、それを見てやってみようとかできるので。

【ファシリテーター】

ありがとうございました。

次は、「やさしさをつなげていくきもちのバトン」というアイデアシートの方、お願いします。

【参加者C】

私はCにしましたが、いつも文京区のイベントとかに行くと、くまモンにはすごいたくさん人が群がっているんですけど、B U Nレンジャーはすごく閑散としているので、ちょっと応援しています。子どもはすごい大好きです。

【ファシリテーター】

早く、かわいいゆるキャラが欲しい。

【参加者C】

私は、子どもが自分が大事にされているということを感じさせてあげたいなというのを思っていて。子どもは、今、小学生が二人と保育園児が一人いるんですけども、前、小学生が小さい頃はアメリカに住んでいたのと、あと、隣の北区に住んでいました。それに比べると文京区が断トツで悪いなと思っているので、ちょっと、やっぱりここが何だろうというふうに考えると、周りの人たちが冷たい。自分の小学校の人とか、関わっている人たちは優しいんですけど、それ以外になると、本当、何か舌打ちするぐらいのレベルの人たちがいるような。多分、子どもたちもそれは感じてしまっているんで、そこはちょっともう少し優しくなったほうがいいなと思っているのと、あとは先ほどと同じような感じなんですけど、環境がやっぱりどうし

でも小さくなっているんで、北区でさえもっと大きかったとか、北区でも保育園は行っていたんですけど、やっぱり文京区になったら一気に小さくなってしまって、そこはすごく感じているので、やっぱり、子どもは本当に体を動かしたい、特に上の子は男の子なので、公園に行くのもすごく大変だったりするので、やっぱりもうちょっと近いところで、ここで遊べるという場所、特に本当に近くの公園はボール遊びができないので、そこは何かできないかなというのは、子どもたちの雰囲気を見ていると、親としてはすごく感じる場所です。

何かいいこと、何かできることがないかなと思って今日は参加させていただいたので、皆さんのご意見をお聞きしながら、いい方向に進んでいけばいいなと思っているところです。よろしくをお願いします。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

北区と、あとどちらっておっしゃいましたか。

【参加者C】

アメリカのワシントンD Cなんですけど。

【ファシリテーター】

あちこちで、子育てされていて。

【参加者C】

そうですね。でも、他はあまりつらくなかったんです。

【ファシリテーター】

文京区はつらいんですか。

【参加者C】

文京区は、そうですね。やっぱり、何だろう、満足度は下がりましたね。

【参加者E】

公園は、お友達とかと行ったりしますか。

【参加者C】

友達はたくさんいるんですけど、その公園自体が狭いので、危なかったりとか。

【参加者E】

どこですか、具体的に。

【参加者C】

西片公園とか、そこら辺とかも、やっぱりその時間によっては小さい子は遊べないとか、場

所がないから小学生がもうどんどん遊んでいて。小学生も気をつけないといけないけど、小さい子も気をつけないといけなかったり。茗荷谷のあちらに行くと、急にドッグランとかが夕方始まって、ボール遊びをするところで、ボールを犬に取られたとか言っていたり。ちょっと優先度が違うなというのは。

【参加者E】

それはやっちゃいけない。

【参加者C】

やっちゃいけない時間で。

【参加者B】

ただの生活の通り道なので。

【ファシリテーター】

お二人ともワンちゃんを飼っているんですって。

【参加者C】

そうなんですね。

【参加者E】

だから、それはやっちゃいけないですよ。

【参加者C】

ちょっとそういうのでびっくりして。いや、それもちょうと区民の声には書いているんですけども。スポーツセンターのほうに言っても、自分の管轄じゃないから警察に言ってくれになってしまうので。

【参加者A】

そんなに差がありますか。

【参加者C】

ありますね。人の冷たさは感じるかもしれないですね。

【参加者A】

冷たい。そうですか。

【参加者C】

学生はいいんですけど、やっぱり一人で働いて、単身の方々というのがいらっしやると思うんですけど、やっぱりそこがあまり目を向いていないのかなという。やっぱり子どもがいたら邪魔というか。数人連れていたら邪魔ぐらいの感じをさせることが多い気がしますね。

【参加者E】

私の妹も、今アメリカで子どもを産んで育てているんですけど、一緒にいると、そんなに冷たくないですよ。結構優しいですよ。

【参加者C】

そうですね。ハローくらいの感じで。道ももちろん譲ってくれるぐらいなので、ちょっとここに何か専用とかがあれば、もう意識がはっきり変わるんじゃないかという意味で書いて、ちょっとこれはあれですけど。

【ファシリテーター】

公園の広さを広げることは難しいけど、冷たさは何とかなりそうね。私たちとしてはできるんじゃないかと。

【参加者C】

そうなんですよ。私も多分子どもが大きくなったら、もう気にしなくなるかもしれないので。そこはやっぱり、自分たちがこういう方向で行くというのは、方向づけしたほうがいいかなと思います。

【参加者A】

私、孫を遊ばせていたけど、そんなに冷たいとかというのは感じたことないんですよ。狭いかもしれないけど。

【参加者E】

あとベビーカーが、今、大きいじゃないですか。あれを連れているお母さんたちと擦れ違うときに、結構びくって感じで、ごめんなさいみたいな感じにされることがあって、そんな普段、気を遣わないでいいのに。

【参加者C】

そうなんです。気は遣うんですよ。

【参加者E】

ベビーカー優先でいいんですよ、ここはと思うんですけど。

【参加者A】

過剰反応かしらね。

【参加者E】

ベビーカー優先条例くらいつくったほうがいいです。

【参加者C】

どうしても狭いとね。

【ファシリテーター】

ベビーカー優先。

エレベーターみたいですね。ベビーカー優先というと。

【区長】

どうやったら解消できますかね。物理的な広さはね、チヒロさんが言ったみたいに、河川敷があるわけじゃないし、この12平方キロ弱という、3掛ける4というところの中での話ですよ。

ごめんなさい、否定するわけじゃなくて、参考までに、どうして北区から文京区に引っ越してきたんですか。

【参加者C】

それは職場が近いからです。単純に。

あれです、1年生になるときに時短がなくなる。共働きなんですけど、時短がなくなるので、職場に近くないとお迎えとか大変だというので。

【参加者B】

地域の公園も、結構、午前中、それこそAさんがおっしゃっていた、保育園の子がわっと思うので、夕方になると、今度、育成室の子たちがわっと思うたりするから、家族連れが肩身の狭い思いをしているのを、何か見ている、確かにそうだなと。

【参加者C】

かといって、解決方法も…。

【区長】

悩ましいですね。いや、今日もここに来る前に、保育園の父母連、保育園の場合はPTAと言わないんだけど、ほとんど区立保育園にしかないんですよ。私立の保育園にはほとんどないんですけど。その父母連の人たちと話していても、やっぱり小学生のお子さんがあるパパやママも今日いたけれども、でも小さい子しかいないところもいて、小さい子にとっては、やっぱり、キャッチボールをしたい小学生高学年ぐらいは、もう危険人物でしかない。

【ファシリテーター】

そうなんですよ。

【区長】

じゃあ、小学校のお子さんたちにとっては、バギーや砂場で小さく遊んでいる未就学の子た

ちは、自分たちの活動の邪魔でしかないと言って、同じところで二つの世代がやるのは、どだい無理なんですよ。どう切り分けるかという話なんだけど、切り分けるほど、そのさっきの話で、切り分けるほど面積がないわけですよ。

【参加者B】

下校後の校庭とか園庭を、小学校や幼稚園の先生はそこはノータッチで、園庭だけ開放できるとかだと。

【区長】

小学校の校庭は、今、放課後全児童保育といって育成室に行っていない子たちが学校に残れるんですよ。そこはNPOだったり、株式会社だったりに委託するような形で、そこを先生たちは関わらないでやっていて、メニューをびっちり使っているんで、ほかのところが入ってくる余裕はスペース的にないですね。混ざっていいんだったらまだあれだろうけど、今、多分この時代無理ですね。事故が起きたらとか、不審者が入ってきたらとかどうにもならない。

【参加者B】

幼稚園も預かり保育はやっていますよね。幼稚園の園庭も預かり保育を。

【区長】

そうです。預かりで、結局夕方まで。全園でやっていますから。

【ファシリテーター】

難しい気がしますね。

では、時間も限られておりますので、次のアイデアシートに行かせていただきたいと思います。 「縦割即席チーム対抗スイカ割り付き水鉄砲大会、おにぎり作り付き、プチ運動会など」というアイデアシートの方、お願いします。

【参加者D】

全然真面目な話じゃなくて、恐縮なんです。私はDです。よろしくお願いします。文京区在勤で、埼玉県のと光市から通勤しています。今日は仕事終わりに来たんですけども。と光市で子どもの居場所づくりだったりとか、あとプレーパークみたいな活動だったりとか、そのほか、いろんな活動にちょこちょこ顔を出して、一緒に遊ぶみたいな大人をやっているんですけど、そんなアイデアです。

自分も、子どもが小中高と一人ずついるんですけど、それぞれ小さいうちに、大人と一緒に遊ぶとか、大人と一緒に何かを作ったり、食べたりというような活動を幾つかやってきていて、やっぱり子どもって、大人が思っている以上にすごく大人のことを見ている、感じるものもす

ごく多いなと思いました。コロナでずっとひきこもりの時期が長かったせいなのか、最近の子たちって人が怖いみたいなんです。今、小学校の下の子が言うには、大人と話すのが怖い。何ならお店の人に自分で行くのも怖いと言うんですよね。なので、何かそれってちょっともったいないな、もうちょっと信頼できる大人がいっぱいいるんだよということを知ってもらいたいなと思ってのアイデアになります。

何だろう、活動、遊ぶだけだとなかなか人って集まりにくいので、食べ物とセットにすれば来るんじゃないかというちょっと安直なアイデアになるんですけど、夏だったらスイカ割りしながら水鉄砲大会をして、みんなで最後にスイカ食べて終わりとか。あと、運動会もただ運動会するだけじゃなくて、例えば、景品の代わりに、みんなで新米でおにぎりを作って食べようみたいな会にすることで、何か核家族も増えていて、人との関わりが少なかったり、あと家族と先生以外の大人を知らなかったり、何かそういうことがあるなと思ったので、そういうきっかけづくりになればいいんじゃないかなというふうに思って、アイデア出しをしました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

以前からね、私、文京区100人カイギをやっていて、Dさんは、和光市の100人カイギをやられていて、100人カイギつながりで、以前知り合って。和光市にはスーパー公務員の方がいらっしゃるんですよね。

【参加者D】

そうですね。

【ファシリテーター】

私はスーパー公務員のこと知らなかったんですけど。何か、市民の人が自発的にどんどんやっていこうという、何か市民性が醸成されているような。

【参加者D】

そうですね。何かを決めるときに、結構ワークショップを開催して、市民の声を聞きながらやったり、つい先日、子どもの人権ワークショップというのをやっていて、参加してきましたんですけど。子どもの人権ってすごい堅苦しい中で、子どもと大人が一つのテーブルの中で、比較的簡単なスライドを見ながら、このときはどう思うみたいな話をして、その理解を深めていく。あとやっぱりこういう場と同じなので、自分が何を言っても大丈夫なんだよと、安心できる場所で、大事なことを学んでいくというような会があったりしたので。何か大人と子どもと一緒にやっていこうというような活動が幾つかあって、ちょっと機会があればご紹介できれば

なと思うんですけど。

【ファシリテーター】

偶然、100人カイギで知り合ったんだけど、偶然、会社がね、本郷にあるというところで。じゃあ、ちょっと文京区つながりで何かいろいろやろうみたいな形で、その後も仲よくさせていただいて、今回、縁があったということですね。

【参加者D】

ありがとうございます。

【ファシリテーター】

こういった形で、今日はありがとうございます。

では、次の、「外遊びの場づくり、小学生の登校の見守犬」というアイデアシートの方お願いします。

【参加者E】

名前はEと呼んでください。私、文京区で生まれまして、祖父母の代から何か、孟母三遷で引っ越してきたんですよ。文京区に。やっぱりその頃から、教育が何かいいということで。それで、私も文京区の学校に通っていたんですけど。

まず小学生の登校の見守りの件からで、今、スクールガードといって、朝、登下校を見守ってくれるボランティアの方がいらっしゃるんですけど、その見守りのときに、私、犬と暮らしているんですけど、静岡県の小学校で、黒のラブラドル、この子、盲導犬のキャリアチェンジ犬なんですけども。この子が2歳から10年間、毎週月曜日、学校に行くのが憂鬱なときでも、この子がいれば会いに行ける、会いに行きたいということで、学校に行くのが楽しくなるよという感じの、結構全国ニュースとかにもなっているので、検索していただければ分かるんですけど。そういうのを、月曜日の朝、子どもたちを小学校で迎えるというのができるんじゃないかなと。

【ファシリテーター】

健やかな成長をワンちゃんが見守ってくれるということですね。

【参加者E】

そうですね。これは、結構、犬と暮らしている方で、時間がある方、お散歩する時間の途中でもいいので、できるんじゃないかなと。

あともう一つは、外遊びの場づくりということで、プレーパークってご存じですか。

【参加者C】

六義公園の。

【参加者E】

そうです、あれは月1回やられるんですね。それをもう常設に、常にかいているという、プレーパークというのが文京区にないので、できたらいいなということで提案しています。

【ファシリテーター】

時々だったらあるんですか。

【参加者E】

月に1回、六義公園で開催されているので。やっぱり常設のプレーパークだと、またそれとは違うよさが出てくるんですね。プレーパークというのは、自分の責任で自由に遊ぶというのが信条なんですけれど、そこでいろんな子どもたち、小さい子も、それから支援の必要な子たちも、あと年齢層も、赤ちゃんから小学生の子まで同じ場所で遊んでいるんですよ。世田谷区にある羽根木プレーパーク、プレーパークが始まったところなんですけど。お聞きしたら、小さい子がいる状況に大きな小学生の高学年の子が慣れていって、それで、ちゃんと危ないからということで、遊びを自分たちがすごく減らしたり、小さい子を守ってあげるみたいな感じの縦の関係ができていますね。そこには、実は、羽根木プレーパークの屋外型子育てサロンというふうなのができていまして、それもやっぱり、世田谷区から委託されているんですけれど、そこに乳幼児の子を連れて、お母さんたちがやってくる。今、文京区の子育てサロンあるんですけれど、屋内なんですよ、全部。

【ファシリテーター】

全て屋内。

【参加者E】

屋内なんですよ。でもやっぱり外遊びというのは、乳幼児の子の発達にすごく大事なんですね。いろんな風を感じたり、刺激がいろいろあるので。あともう一ついいことは、ここにも書いてあるなんですけど、屋内のサロンだと、お父さんが連れて行くときに、みんなお母さんで、お父さん一人だと入りづらいんですよ。利用しづらいんです。だけど屋外だったら、子どもをこうやって、その屋外のところも子育てサロンなので、お世話している方がいらっしゃるので、そこに置いておいて、自分はちょっと離れたところから公園の中にいられるということで、すごく利点があって、今、日曜日になると、お父さんがお子さんを連れてくる姿、いっぱい見かけますよね。これは屋外型子育てサロンの利点だと思うんですね。それも、羽根木プレーパークの中で行われています。

あと、また世田谷区の話になっちゃうんですけど、移動式遊び場といって、車の中に遊び道具を積んだり、リアカーに積んだりして、いろんな公園を巡る。そうすると、文京区の全て、いろんな公園を巡って行って、そこで子どもたちが遊びに来て、そこにいる外遊び指導員というか、推進員という方が、お母さんやお父さん同士の間をつなぐということも、その遊び以外でつながりをつくるということにも協力しているというのがあるんですよ。ここで17個、公園を列挙したんですけど、これで大体文京区全域カバーできるかなというのも、この常設プレーパークと同時に行うと、結構、外遊びが活発になるんじゃないかと思います。

今、小学生の8割が友達と外遊びを1回もしないんですね、平日。

【ファシリテーター】

そうなんですね。

【参加者E】

ということです。以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

区民として何ができるか、当番の感じですかね。当番制。

【参加者E】

これは、大人がボランティアでどんどん関わってもらいたいと思います。

すごく面白い話を聞いたのは、ただお父さんのためのイベントというのもたまにやるんですけど、それは何かといたら、自分でコーヒー豆を煎るだけなんです。

【参加者B】

すてき。

【参加者E】

コーヒー豆をじっと煎っていると、社会人になってからなかなか地域とのつながりが薄くなっているお父さんも、隣のお父さんと自然に話し出すんですって。じっと煎っている時間って。そうすると、お父さんもプレーパークに行こうかなと思ってくれると、子どもを連れてきてくれるからいいわよと教えていただきました。

【ファシリテーター】

お母さんもたまにはゆっくりしたいですよ。

【参加者E】

そうなんですよ。お母さんはその子育てサロンで、本当に眠れる時間をつくれる。乳幼児の

ときは眠る時間大事ですよ。

【ファシリテーター】

大事ですよ。疲れちゃいますものね。

【参加者B】

プレーパーク掛けるいろんなイベントというのが、何かちょっと今見えたり。

【ファシリテーター】

いろいろできそうですよね。

【参加者D】

和光市のほうでもプレーパークをやっていて、時々遊びに行くんですけど、来ているお父さん方のパパ会みたいなのがあって、焼き芋をやったりとか、そこに集った人で染物をやったりとか、何かそういうきっかけになって、すごい楽しそうです。お父さん方も。

【参加者E】

公園で火を使えるんですかと、最初びっくりしていろんなところに聞いたら、防災という意味で、今、防災のかまどとかあるじゃないですか。公園に。自分たちでそういうときに使えるようにという名目で、できるようにしているという、区が。

【ファシリテーター】

自然に触れ合うってすごく大事なものね。想像がつかないですもの、触れ合わない。

【参加者E】

あと、もう一つ私が言いたいのは、区立の小学校の校庭が、全部土じゃないんですよ。

【参加者D】

土じゃないんですか。

【参加者E】

土じゃないんですよ。

【ファシリテーター】

そうですよ、豊島区もほとんどそうです。

【参加者D】

知らなかった。都会。

【参加者E】

ちゃんと理由があって、砂ぼこりが飛ぶと洗濯物が汚れるから嫌だということと、やっぱり水はけが悪いから稼働率が悪くなっちゃうということなんです。私が通っていた小学校は、土の

グラウンドだったんですよ。それを受けて、同じ同年代の子が、土のグラウンドじゃないところで遊んでいるのを見て、すごく罪悪感があって。プレーパークというのは基本的に土なんですね。泥遊びもできるような場所で、だから、そういう土にも触れてもらいたいなと思いました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

そうしましたら、このたくさん出たアイデアの中から、一つ、「子どもの健やかな成長がむぐ地域の未来」という大きなタイトルに適しているというか、今日はこれを掘り下げたいなというものを、みんなで一つ決めて、そこを掘り下げたいなと思うんですけども。どうしましょうね。いろいろと出てきています。慣れるとか、のんびりとか。こことここは、割と似ているのかな。ここもそうですよね。優しさは気持ちの問題ですね。

【参加者E】

地域全体が必要になってくる。

【参加者C】

きっかけがないという感じ。

【ファシリテーター】

そうですね。広いところで遊ばせてあげたいとか。遊びですかね。全体としてのまとめると。

【参加者E】

遊びですね。

【ファシリテーター】

遊びで行きましょうか。遊び。

【参加者A】

遊べる場所じゃないですか。

【ファシリテーター】

場所ね。場所はね、広げたりとかできないので。

【参加者C】

場所の工夫はありますよね。

【ファシリテーター】

そうですね、工夫。遊びの工夫。

【区長】

優しさとその場所で言えば、この夏も、ちょっと子どもたちが騒いだり、子ども祭りとかやっている、ばんばん110番が入っています。

【参加者A】

110番になるんですね。

【区長】

110番になるんです。そういう意味じゃ、優しくない人たちが増えている。

【参加者A】

うるさいということですか。

【区長】

うるさいと言ってすぐ110番です。110番って、しっかりしたシステムだなと思っているのは、110番すると必ずパトカー出動なんです。現地に来るんですよ。どうなっているか確認するんです。連発されると、でも、やっているイベント、途中でやめられないじゃないですか。ずっと来続けるんですよ、パトカー。パトカーのお巡りさんも、いいかげんにしてほしいですねと主催者に言うぐらい。そういう人たちが増えているというのはありますね。

【参加者A】

それはあれですか、子どもたちがキャーキャーとか、わーわーとかいう声がうるさい。

【区長】

いや公園で、いちいち110番ほどではないですけど、ただ、公園の改修を進めると、今、大体1年に3園ずつぐらい、公園が新しくなっているんですけど、新しくなると、その新しくなった公園は遊具が新しかったり、凸凹がなくなったりきれいになっているから、来ますよね。来ると、近隣のマンションからは、役所にはすごい苦情ですし、それとの戦いです。むしろ。子どもに騒ぐなというのはどだい無理な話なんですけど、そのための公園なので。

【参加者A】

そうですね。

【ファシリテーター】

先に、Bさん、お願いします。

【参加者B】

私もEさんと一緒に、文京区3代目ですけど、あまり冷たさを、実は私もあまり感じていない。

【区長】

日頃はね。私も3代目ですけど。

【ファシリテーター】

3代目が3組もいて、すごい会じゃないですか。

【参加者B】

町会が、町会のおじさんたちがうざめなぐらい、愛が重い。なので、町会のお祭りというと、町会外の子どもたちが来ちゃうぐらいに盛り上がっても、誰もあまり言わないんですよ。次の9月も楽しみだぜみたい。

【ファシリテーター】

うざいぐらいに。

【参加者B】

うざめなぐらい、おじさんたちと子どもが熱いみたいな。そういうイメージがあって。

【参加者C】

どの辺りの地域ですか。

【参加者B】

白山なんですけど。

【参加者C】

そうなんですね。

【参加者B】

おかしいな。

【区長】

積極的に地域デビューをしているかどうかもあるかもしれないですね。

【参加者C】

なるほどね。

【区長】

中にどーんといっっちゃう。生まれたときから中に入っているから当たり前なんだけど、確かに町会の加入率は落ちているんですよ。町会の人たちも、子ども広場みたいなのをやると、参加者は増えるけど、終わるとお菓子持ってさっと引いちゃって、手伝う側に回ってくれないというのが悩みって聞くじゃないですか。

【参加者B】

だからこそ、今、新しく戸建てで越してきた世代の方たちを、そのおじさんさんたちがスカ

ウトして、それこそ犬を使ったりするとかしてやっています。町会楽しいよみたいな。

【参加者C】

まさに私も、初め、文京区に引っ越して建てたときに、町会ってどうなっているんだろうと思って、それまでは海外とかだったので関係なかったんですけど。だから、まず最初にやったのは、文京区に電話したんですよ。町会、うちのところだと、どこの町会なんですかというのと、町会長さんのお電話番号教えてもらっていいですかと言って。多分、あっちからかかってきたのか分かんないんですけど、個人情報で。いろいろそこでつながらせていただいたんですけど、多分そういうことをしている人って、あまりなくて、うちは町会に入ったんですけど、ほかは入っていないけどお祭りとかは来ていると、だけど以上ですというところはあるので。そこまで関わっていないというのは確かにありますよね。

【参加者E】

犬のほえ声も、すごいクレームが来るんですよ。だから、先に周りに挨拶をしておくんですよ。子どもの声というのは、自分たちが慣れているとそんなにうるさく感じないけど、慣れる機会がないからうるさく感じるということなので、やっぱりその方たちは子どもと一緒に遊ぶ場に巻き込んでいくと、そういうクレームが減るんじゃないかなと思いますね。慣れなんですよ。

【参加者C】

Eさん、誰に挨拶をするんですか。最初。

【参加者E】

ご近所に。あまり家の犬はほえないんですけど、それでも一応、もうめっちゃめっちゃ挨拶はしています。あと、お掃除ですね。家の前を掃除すると、挨拶することになるので。それで。

【参加者A】

うちの町会もなかなか分かれているので難しい。積極的に町会に関わっていく……。

【ファシリテーター】

本当ですよ。

【参加者A】

私は建築士なんですよ。でね、今、聞いて思ったんですけど、うるさい人には音はうるさいですよ。なので、東京都なんかいろんな補助金みたいなものがあるけど、文京区は私は分かりませんが、窓のサッシの防音効果というのが、悪いけど、安いマンションほど軽いサッシを使っていて、そうしたら音が入ってくるんですよ。だからそれを二重にするのも、例えば

区で補助をね。

【区長】

あるんです。

【参加者A】

あるんですか。何かそういうのもちょっとね、ご紹介してというのは、あれはそんなに時間がかからずできますしね。

【区長】

多分、110番する人たちは、自分のほうが原因だということは多分認めないんですよ。音を出すやつが悪い。

【ファシリテーター】

原因はいつも外。

【区長】

今回一番多いのは、盆踊りの太鼓です。

【ファシリテーター】

響きますよね、確かに。

【参加者E】

世田谷区のプレーパークも、そういうお金を稼がなくちゃいけないので、区からの助成金とか委託金だけじゃ足りなくて、結構、ガムランコンサートとかやるんですって。そうすると、周りが住宅街なので、その前に、1軒1軒挨拶に行くんですよ。だからクレームが来た人たちはもう皆リストアップして、何かあったときはその前に行くんですって、ご挨拶に。それで、もうプレーパークというのはご近所との協力、そしてクレーム対応、これがまず一番ですと言っていました。

【ファシリテーター】

先に分かればね。

【区長】

そういうクレームを言う人たちというのは、個人が特定されることを嫌うので、匿名の中に隠れているので。見つけちゃえば、地域の人の方がいくらでも手段を持っているわけですよ。見つけられないので、110番ですよ。

【ファシリテーター】

そうか。

【参加者E】

マンションだったら、マンション1軒1軒行って…。

【区長】

マンションは、オートロックで入れないんですよね。

【ファシリテーター】

そうですね。

【参加者E】

東京ドームのコンサートにめっちゃ慣れているので、それこそ太鼓の低周波音も。

【参加者D】

すごいですよね。

【区長】

シビックセンター、共振しますから。花火がどーんと鳴るとずーんと。

【参加者E】

もう耐性がついていて。クレームを言おうという気にもならないんですけど。

【ファシリテーター】

耐性の問題はありますね。この前も神宮の花火が3、4時間ずっと上がっていて。音しか聞こえない。見えないので、見せてみたいな。ずんずんしか聞こえません。でも気にならないんですよね。

【参加者D】

でも遊ばせたいですよね。

【ファシリテーター】

そうなんです、はい。ありがとうございます。お話戻りまして、遊び。

ご意見をね、ちょっと書いていただきたいんですよ。今から。言ってから書いてください。

【参加者B】

プレーパーク、今、Eさんがおっしゃったみたいに、やっぱり採算が取れないのが気になるんだったら、無料でオープンできる時間と、企画で、この日はおいくらかかるけれども、こんなおいしいものを食べられるとか。

【ファシリテーター】

それはいい。

【参加者B】

あとは、子どもを絶対的に預かりますみたいな。それはすごくニーズが高い気がします。

【ファシリテーター】

こちらのスイカ割りとかと合わさったような感じで。

【参加者B】

大体ワンコインぐらいすれば、500円だったら行けるみたいな。ワンコイン預かり制度みたいな。

【ファシリテーター】

ピロリンが入ってくれた思い出横丁というイベントとか。

【区長】

ついこの間、伝通院であって。

【ファシリテーター】

私が見た感じ7,000人ぐらい。

【区長】

そんなにいた。すごい。朝10時から夜8時まですごい人だったんですよ、伝通院の境内。私、文京区長兼伝通院檀家世話人なので、伝通院に詳しいんですけど、大変です。お寺、翌日商売にならないぐらい。ただ、スタッフは翌日デッキブラシで掃除までしていますけどね。

【ファシリテーター】

前日準備、当日、翌日のお掃除。3日間頑張っています。

【区長】

だからね、結構、場はあるんです。7,000人ぐらい文京区で来るんだから、知らない人ばかりでもないんです。そしてこれも110番されました。

【参加者E】

そこまで周知していてもですか。

【区長】

これはね、自転車を区道とマンション敷地内に大量に置いて、歩けないじゃないかという。それは参加者のルール、マナーですよ。さっきの優しくないというのも、その区民の、みんなと違うその人なりのルールなのか、その人なりの考え方なのか。そういう地域のイベントを育てようというふうにみんなが向かわない人たちが一定数いるということを前提に、いろんな企画を考えなきゃならない。リスクヘッジしなきゃならないんですよ。

【ファシリテーター】

結構広いんですけどね。

【参加者E】

あそこは思い出横丁じゃないときは、商店街の方がやったときは、中につくっちゃってましたよ、駐輪場を。

【参加者C】

あの砂利のところに置きました。

【区長】

駐車場のところでしょう。そこまでブースが出ているんです。

【ファシリテーター】

ブースを減らして、自転車置場を作るしかないですね。

【区長】

福寿幼稚園を借りたこともあるんだけど、僕も実は、朝から夜まで思い出横丁を見ていたんだけど、夕方の7時以降のときは、福寿幼稚園を開けても無理。

【ファシリテーター】

入り切らない。

【区長】

全然無理。多分プロのガードマンを雇って、自転車で来た人を排除しないと駄目だと思う。優しくないけど。駄目だと書いてあるじゃないですかと言って、帰って家に置いてこい、もう一回来い、まだやっているからと言うしかない。

【ファシリテーター】

しょうがないですね。

ルールはあまり言いたくないけど、作らざるを得ないですね。

【参加者E】

それか、あそこの門前の通りを封鎖しちゃって駐輪場にしちゃう。

【ファシリテーター】

それはいいですね。

【区長】

でも結局、そのエリア内の人の交通は確保しなきゃならないので、全部封鎖できるかという
とできないんですよ。

【ファシリテーター】

そうですね。

【区長】

車が入ってきて、自家用車が入ってきたらそれは通してあげなきゃいけないので。
すみません。本題じゃないですが。

【ファシリテーター】

いろいろ思いがね、擦れ違ってしまって。

【区長】

そういう、何かみんなが楽しめる遊びの空間を、ちゃんとクレームなく作ってあげるための
努力を、みんなでしなきゃならないぐらい、子どもの数も増えていることもあるんですけど。

【参加者B】

そう思ったときに必要なのって、叱れる大人だと思うんですよ。何でもいいよ、いいよ、こ
こは何やってもいいんだよというのを保証するための、自由のためのルールを教えてあげる。
最初の頃には常設の大人が必要なのかなという気がします。

【ファシリテーター】

遊び場ですよね。

【区長】

そうですね。今、思い出横丁の話では、自転車で来るなというルールを決めて、大人も子ど
もも守れば、あとは音の問題だけという感じですからね。

【ファシリテーター】

そうですね。ありがとうございます。

どんどんちょっと書いていただいて、貼っていただけると。

じゃあ、こちらに。遊びについて、皆さんのいろんな意見が出ているので、このアイデアい
いなというところで広げられたらいいなと思います。一つに意見をまとめるのが目的ではない
ので、遊びについて、今のお話の中からさらにしていきたいこととかを書いていただければと
思います。残りがあと20分ぐらいしかなくなってしまう。すごい深いテーマだったんですよね。
はい、Dさん、どうぞ。

【参加者D】

遊びから考えると、なかなか抜け出せない気がするので、逆にもうちょっとずるくなって、
やってほしいことを遊びにつなげるほうが面白い。例えば、遊んだ後に片づけをしてもらうと
いう目的があったときに、遊びにつなげてやってもらうほうが、子どもたちも気持ちよくでき

たりとか、参加できたりというのがあるので。ただ遊ばせるだけというだけじゃなくて、何か目的を遊びに変えるみたいな発想がいいのかなというふうに思います。

【区長】

なるほどね。

【参加者E】

よろしいですか。今、道遊びというのを、渋谷区がすごく頑張っていて。狭い道を封鎖して、道路に、みんなでチョークで絵を描いてもらいます。落書きしてもらおう。それを、じゃあどうやって原状復帰するかというところで、最後はこうやってデッキブラシで洗うんですけど、その洗うのが遊びになっているんです、子どもにとっては。それが楽しいから、みんな子どもたちがすごく楽しくやっているんで、あっという間にきれいになります。あと公園で、段ボールでみんなで家を作ったりね、それも潰すのが楽しいんですよ。最後、その潰すのまでがすっかり遊びになっているという話があります。

【区長】

昔は文京区でもありましたよね。今でも2か所だけ残っていて、礪川地域活動センターの前のところと、根津の藍染のところと2か所だけで、本当はもっと数多くあったんですけど、結局、管理する地域の人たちがいなくなっちゃうんですよ。その中で子どもたちを見守って、遊んでいるから、やっているんですよ。

【参加者E】

今、募集中ですもの。そういうの。

【ファシリテーター】

そうなんですね。

【参加者E】

見守り。

【ファシリテーター】

はい、ではBさん、お願いします。

【参加者B】

プレーパークの自由の中にやっぱり狙いを設ける。あと、本当に自由に遊べるためのルール作りは必要だと思って。もう一つの柱が、やっぱり常勤職員さんを区で賄うのが大変だと思うので、外部委託することで、自由と狙いが担保される気がします。

【参加者E】

専従ということ。

【参加者B】

そうです。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

はい、お願いします。Cさん。

【参加者C】

私もちょっと続きなんですけど、ちょっと教えてもらえるスポーツ、きっかけがあるという
なというのがありまして。

【ファシリテーター】

大人と話をする。

【参加者C】

そうそう。おじいちゃんおばあちゃんでもいいし、誰でもいいので、何かちょっとそういう
きっかけがあると、教える側も、あと教わる側もいいのかなと思います。

【ファシリテーター】

そうしたら、将棋とかもそうですね、ルールは分からないけど。

【参加者C】

私も教えられないのでというのがあって。

【ファシリテーター】

それはすごくいい。何でしたっけ。コマ。

【参加者C】

ベーゴマ。

【ファシリテーター】

ベーゴマ。夕焼けだんだんの上で、よくおじいちゃんたちが……。

【参加者A】

夕焼けだんだんは谷中ですね。

【区長】

荒川区と台東区の間。

【ファシリテーター】

ほぼ荒川区ですか、あそこは。

では、Bさんお願いします。

【参加者B】

プレーパークに幼稚園、保育園でみんなですぐ行っちゃう。それで楽しさを1回感じとって、ママ、プレーパーク行こうみたいな。園発信で家族も参加したくなる、きっかけを作るほうが、何でもかんでもありなところではなくて、こういう遊びがしたいという目的を持てるんじゃないかと思いました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

では、Aさん、お願いします。

【参加者A】

私、そのプレーパークというのをよく分かっていないんですけど、ここに書いてある開催予定地で、教育の森公園と大塚公園っていろいろあるけど、ここで開催可能なんですか。そういうものが。それとも、もう既に実施しているとか。

【参加者E】

文京区って、公園を平日しか貸してくれないんですけど、六義公園プレーパークでは特別に日曜日も貸していただいて、それを月に1回やっていらっしゃるんですね。だから常設とは言えないんですね。常設という意味は週に5回ぐらい、土日ぐらいは開いていなければいけないので。

【参加者A】

そうすると、そのプレーパークをやっている日は、一般の何か公園に行きたいなという人はどうなる。

【参加者E】

六義公園、このぐらいあって、このぐらいですね、プレーパークに使うのは。4分の1も使っていない。限定してやっています。

【区長】

木の近く、土の近く。芝の部分とかあるので。

【参加者A】

いいですね。木だとか土があるというのは。先ほどの公園もそうだけど。

【ファシリテーター】

どろどろになって遊んでいますよね。

【参加者C】

うちも参加させていただいたことがありますけど。いろいろ工作とかもできたり、あと紙芝居を読んでくれる人がいたり、あとは枯葉とかもたくさん集めて、わーとかやって遊びながらとか、シャボン玉できたりとか、そういう一角をつくっていると、ほかの子たちもだんだん来るようになって。ちょっと10分ぐらい遊んで、こっちで遊んでみたいな感じで、いろいろとあるんですけれど。すごく楽しい場だなとは思っています。

【ファシリテーター】

ちょっと行ってみたいですね。

【区長】

羽根木にしろ、世田谷公園にしろ、文京区の公園の5倍ぐらいありますよね。大きさがね。

【ファシリテーター】

では、Dさん、お願いします。

【参加者D】

大人も一緒に遊ぶというのがやっぱり大事なかなと思っていて、昔を思い出して、童心に戻って遊ぶと、何か気がつく子どもたちは別の遊びをしていて、大人のほうが夢中になっているみたいな姿もあったりするので、大人も一緒に遊べるというのがあるといいかなと思いました。

【参加者B】

例えば、そこに遊びのプロが、元保育士とか、元小学校の先生とか、突拍子もない遊びを結構やっているんで、やっぱり泥に対する耐性も強い、あと心の許容も広い、そういう人たちを巻き込んで。そこにボランティアというと、いや、お金ないんだったらちょっと行かないかもと。であれば有償だったら、有償ボランティアとかどうだろう。

【ファシリテーター】

まちにはもう退職シニアの方がすごいいっぱいいるらしいんですよね。あまり出ていらないので。まさに…。

はい。Eさん、お願いします。

【参加者E】

今、プレーパークにいっぱいボランティアさんがいらっしゃるんですけど、シニア世代が、やっぱり自分が子どものとき、ベーゴマを教えに来るんですね。その教えてもらう子は小学校低学年とか幼稚園の子なんです。だからすごい多世代交流が本当に上手にできているんですよね。

【ファシリテーター】

ベーゴマって、私が子どもの頃は、何あれという感じだったんだけど、今やかっこいい大人のね。

【参加者E】

やってみると面白い。

【ファシリテーター】

はやっているらしいですよ。何て言ったっけ。

【参加者E】

ベイブレード。

【ファシリテーター】

多世代交流に広がるのはすごくうれしいなと。

すみません、お時間が。すごい、こんなにたくさんすてきなアイデアが出てきて、今日はとても楽しい会になったかと思います。

最後に、ピロリンからいろいろ。

【区長】

ありがとうございました。

【ファシリテーター】

今まで黙っておいていただいて。

【区長】

いいえ。今日は結構しゃべったかなと思います。皆さんのアイデアを参考にさせていただきたいと思います。

何か最後プレーパークの話ばかりになっていましたけど、文京区でどのくらいのニーズがあるのかだけは、ちょっと吟味したいと思います。特に平日やって、どのぐらい来るかなというのは、今の文京区で子育てをやっている人たちも、何を目的に文京区に入ってきているかといったところとか、あとは、お教室系に通っている人が相当数いる現状とか。本当はそうじゃなくて外遊びをさせたほうが良いということには、僕も完全に同意しますが、その人たちがそれに同意して、活動に参加をしてくれるかどうかはイコールではないので、ちょっとそこは、事業を組み立てるんだとすれば、いろいろハードルはまだまだあるかなという気はいたしました。

あとAさんの保育園の話ですけど、今、文京区、ちょっと造り過ぎたぐらい。元保育課長が

いますけど、広報戦略課長が保育課長のときに。1年間に定員を幾つ増やしたっけ。

【広報戦略課長】

園数でいくと100園を越えました。

【区長】

なので、今は待機児はほとんどいない。

【参加者A】

お庭とかはあるんですか。

【区長】

それは園庭があるところばかりではないです。

【参加者A】

その辺がちょっとあれで、やっぱり遊べないので。

【区長】

ただ、園庭といろんな公園とのマッチングは一定数できていて、それでも芋洗い状態ですよ。要は、さっきの話と一緒に、公園は広がらないので、これ以上。誰かがもう文京区を諦めて引っ越して出て行って、区に寄附でもしてくれないと公園は増えませんから。増える要素がないので。それは園庭が少ないということには変わりがないですけど。ただ、園庭付きの保育園も随分できました。

【参加者A】

そうですか。それはうれしいわね。

【区長】

それと、支援が必要な療育の話ですけど、実は療育の担い手不足はこれからのテーマで、ちょっとアイデアとして非常に参考になったので、担当につなぎたいと思います。というのは、5歳児検診を始めるんですよ。5歳児検診を始めると、ボーダーのような人たちがどんどん発掘されてくるはずなので。まずはアンケートとかそういうのでやって、ちょっと小児科の先生たちも、きっと発達専門の小児科の先生って実はほとんどいないので。いないので、小児科の先生のスクリーニングでは発見されないだろうというふうに思っています。

いろんな絡め手でやって、多分、一塊出てきちゃうと思うんですよ。一塊出てきたのを全部教育センターで賄えるだけのマンパワーと専門人材、スペースはないので、それをどこかでやらなきゃならないというので、巡回型なのか、何なのか。それをやろうとしたときに、専門人材が集められるのかということも含めて、アイデアベースとして非常に参考になったので、

健診は保健所、療育は教育委員会、だけど、全体は子育て支援みたいな、いろんなところが絡まるので、ちょっとこれは参考にさせていただいて、組立ての材料にしたいなと。

あと、遊びの場所をどう確保していくのかというのは永遠のテーマですけど、公園の再整備をしていく中で、実は小さな公園が100メートル、200メートルぐらいのところに隣り合わせになっている地域って、幾つかあるんですね、文京区内の中でも。そういったところを色分けしちゃう。今は、公園再整備しようというのと、地域の人たちが利用している人たちや、近くの保育園、幼稚園や保護者の人たちにアンケートみたいな、どんな公園にしたいですかというのと、結局、同じような公園を造る。争点はトイレを造るか造らないかだけになるというのが、結構よくあるパターンなんですけども、そうじゃなくて、ここはもう未就園の子たちだけしか主に使わない公園、ここは小学校低学年、ここはもうちょっと大きい子とか。ここは籠を造って球技を思い切りできるようにするのかというふうに、エリアごとにマネジメントするというのを、ちょっと今イメージしています。面積は広がらないので、ここはもう、ない物ねだりしてもしようがないので、それはどうにもならないとして、どう特色づけるのかなというところは、課題として視野に入っていますので、取り組んでいきたいなというふうに思います。

あとは、いろんなイベントからつながっていくことの大切さというのは、和光市でも文京区でも全く同じことがあると思うので参考にさせていただきます。ありがとうございました。

【ファシリテーター】

ありがとうございました。

【広報戦略課長】

それでは、本日のダイアログカフェは終了となります。ありがとうございました。